



平成 20 年 9 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社 イ チ ヤ
代表者名 代表取締役社長 山本 真嗣
(ジャスダック コード 9 9 6 8)
問合せ先 取締役管理部長 橋田 宗人
(TEL. 0 8 8 - 8 2 3 - 2 6 3 8)

特別損益の追加発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成20年3月17日付「特別損益の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」において、平成20年7月期中間期において特別損益を計上していましたが、平成20年7月期決算において追加で特別損益を計上する見通しになりましたので、その概要とともに、平成20年3月17日付発表いたしました、平成20年7月期（平成19年8月1日～平成20年7月31日）の通期の連結及び個別の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損益の発生及びその内容

(1) 特別損益の内容

個別決算では、平成20年3月21日付中間決算短信で特別損失として合計1,038百万円を計上してありました。今般、中間期に係会社株式評価損2百万円を計上していましたが、アークマイズ株式会社の純資産価額の下落に伴い134百万円を追加計上し合計で137百万円となる見込であります。その他投資有価証券については、中間期に182百万円を計上していましたが、保有株式の株式市場における時価の下落により、評価損を160百万円追加計上し、投資有価証券評価損は342百万円となる見込であります。また、(株)葵投資パートナーズ匿名組合に対して、投資先企業の業績低迷による投資資金の回収可能性の悪化に伴い490百万円（中間期に250百万円計上済み）の投資損失引当金を計上、その他に当社所有の転換社債について、投資先のファロンクロフト社が推進しているマカオのホテル開発事業（カジノ併設予定）において、事業資金のうち保全できない部分（カジノライセンス取得の為の費用等）に対して保守的に570百万円計上し、前期に計上分787百万円が一旦戻入として特別利益となるため相殺し、差額272百万円投資損失引当金繰入額として計上いたします（このため中間期に計上していた投資損失引当金戻入額530百万円はなくなります）。これら以外に、衣料事業の店舗閉鎖等に伴い退店損失として86百万円、当社資産について回収可能価額の下落により減損損失215百万円、匿名組合契約解約損は、費用が約2百万円増加し66百万円、貸倒引当金繰入額が債権の一部入金に伴い4百万円減額し784百万円となり、特別損失としては総額1,906百万円となる見込であります。また、特別利益としては、償却済みの債権が一部回収できたことにより71百万円の償却債権取立益を計上、その他にも子会社の清算により5百万円の子会社整理益が発生し、総額76百万円となる見込であります。

連結決算では、中間決算短信で発表いたしました特別損失合計442百万円に追加で、個別で計上した、衣料事業の店舗閉鎖に伴う退店損失86百万円、160百万円追加計上した投資有価証券評価損は342百万円となる見込であります。また、貸倒引当金繰入額は246百万円追加設定し505百万円と

なります。また、投資損失引当金繰入額として個別で計上したもののうち570百万円が連結でも計上されます。これ以外には、個別で計上した減損損失272百万円に連結上のれんの減損損失87百万円を追加し合計302百万円となります。これらにより特別損失としては総額1,808百万円となる見込であります。特別利益は個別で計上した償却債権取立益71百万円がそのまま残り、中間期で計上した持分変動差益182百万円と合わせ総額254百万円となる見込であります。

(2) 当期における主な特別損益の内訳と合計

< 特別損失 >

【個別】

(単位：百万円)

特別損失内容	中間期	期末	備 考
投資有価証券評価損	182 ※	342	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
関係会社株式評価損	2 ※	137	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
貸倒引当金繰入額	788 ※	784	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
匿名組合契約解約損	64 ※	66	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
退店損失	—	86	
投資損失引当金繰入額	—	272	
減損損失	—	215	
その他	1 ※	1	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
(合計)	1,038	1,906	

【連結】

(単位：百万円)

特別損失内容	中間期	期末	備 考
投資有価証券評価損	182 ※	342	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
貸倒引当金繰入額	259 ※	505	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
退店損失	—	86	
投資損失引当金繰入額	—	570	
減損損失	—	302	
その他	1 ※	1	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
(合計)	442	1,808	

< 特別利益 >

【個別】

(単位：百万円)

特別利益内容	中間期	期末	備 考
投資損失引当金戻入額	530 ※	—	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
償却債権取立益	—	71	
子会社株式整理益	—	5	
(合計)	530	76	

【連結】

(単位：百万円)

特別利益内容	中間期	期末	備 考
持分変動差益	182 ※	182	※平成 20 年 3 月 17 日発表済み
償却債権取立益	—	71	
(合計)	182	254	

(3) 業績に与える影響

上記(1)の特別損益の追加発生により、特別損失として個別決算では総額 1,906 百万円、連結決算では総額 1,808 百万円の特別損失となり、それぞれ税引前当期純損失を同額増加させます。また、特別利益として個別決算では総額 76 百万円、連結決算では総額 254 百万円が計上されることから、それぞれ税引前当期純損失を同額減少させます。

2. 個別業績予想の修正 (単位：百万円)

(1) 20 年 7 月期通期個別業績予想の修正 (平成 19 年 8 月 1 日～平成 20 年 7 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想(A)	1,050	△500	△500	△1,100	△0 93
今回発表修正(B)	1,139	△454	△429	△2,266	△1 91
増減額 (B-A)	89	46	71	△1,166	△0 98
増減率 (%)	8.5%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 19 年 7 月期)	857	△476	△657	△2,257	△1 94

(2) 修正理由

平成 20 年 3 月 21 日付中間決算で発表いたしました通期の業績予想について、売上高は不動産事業の宅地販売が、販売宅地上の住宅数の増加に伴い街並みが形成されたこと等から顧客の購買意欲が増加したことにより、中間期の見込より更に 89 百万円増加し 1,139 百万円となる見込であります。営業損失は売上高が順調に推移したことを受け 46 百万円減少し 454 百万円となる見込であります。経常損失については営業外収益として受取配当金等の増加により営業外損益がプラスの 26 百万円となることから、経常損失としては当初計画より 71 百万円減少し 429 百万円となる見込であります。また、当期純損失は特別損益が「1. 特別損益の発生及びその内容」で説明した通り、特別利益が総額で 76 百万円、特別損失が総額 1,906 百万円となり最終、当期純損失は当初見込みより 1,166 百万円多い 2,266 百万円となる見込であります。

3. 連結業績予想の修正 (単位：百万円)

(1) 20 年 7 月期通期連結業績予想の修正 (平成 19 年 8 月 1 日～平成 20 年 7 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想(A)	1,060	△930	△920	△1,050	△0 89
今回発表修正(B)	1,146	△924	△882	△2,343	△1 98
増減額 (B-A)	86	6	38	△1,293	△1 09
増減率 (%)	8.1%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 19 年 7 月期)	1,210	△1,032	△1,009	△2,615	△2 25

(2) 修正理由

平成 20 年 3 月 21 日付中間決算で発表いたしました通期の業績予想について、売上高は不動産事業の宅地販売が中間期の見込より更に 86 百万円増加し 1,146 百万円となる見込であります。営業損失は売上高が順調に推移したものの、アークマインズ株式会社の踏査費用等が当初の踏査計画より前倒しで行ったことから当初の見込みより増加したため、概ね予想通りとなりました。経常損失については営業外収益として受取配当金・持分法投資利益等の増加により営業外損益がプラスの 42 百万円となり経常損失としては当初計画より 38 百万円減少し 882 百万円となる見込であります。また、当期純損失は特別損益が「1. 特別損益の発生及びその内容」で説明した通り、特別利益が総額で 254 百万円、特別損失が総額 1,808 百万円となり最終、当期純損失は当初見込みより 1,293 百万円多い 2,343 百万円となる見込であります。

以 上